

第 2 回瑞浪市情報化推進会議議事録

日 時	令和元年 10 月 4 日（金） 19 時 00 分から 20 時 15 分
場 所	瑞浪市役所西分庁舎 1 階会議室
出 席 者	伊藤 治会長、築瀬 洋一郎副会長、河口 敦子委員、足立 安博委員、 向井 保子委員、大竹 徳久委員、加藤 幸枝委員、荻山 利幸委員、 小木曾 都委員、安藤 徳之委員、有賀 和秋委員、伊藤 明芳委員
欠 席 者	工藤 美佐子委員、籬 秀樹委員
事 務 局	正村 和英、梅村 修司、加藤 博史、水野 貴祥 ITbook：青木 由美、吉川 基徳、河合 利香（記）
傍 聴 者	なし

【会議録】

《会長あいさつ》

会長

第 2 回委員会では、「第 4 次瑞浪市情報化推進計画」策定に繋がるアンケート調査に基づいた結果報告を受ける。提案等は次回以降を想定している。

《議事》

「(1) 第 1 回瑞浪市情報化推進会議議事録（案）について」

委員

P2 に「諮問書を授与した」と明記されているが、表現が適切ではない。

事務局

事務局で適切な表現に訂正する。

委員

P6 の発言者と発言内容にズレが生じている。

事務局

訂正する。

事務局

資料作成に時間がかかったため、資料を事前配布することができなかった。大変申し訳ない。再度議事録を精査し、ホームページで公開する。

委員

委員会の前日でも構わないので、資料は事前配布していただきたい。

事務局

了解した。

「(2) 調査結果の
報告について」

「(ア) 情報通信イ
ンフラ調査」

事務局

「第3次瑞浪市情報化推進計画」では、ブロードバンドサービスの利用者による情報通信インフラの地域間格差の解消を挙げ、ブロードバンド事業者の整備を働き掛けてきた。現在の整備状況は、「第3次瑞浪市情報化推進計画」時と比較して、サービスエリアが拡大している。また、キャリアの発表では全国平均で人口カバー率98%を達成しており、情報通信インフラの整備は進んでいる状況である。通信速度が100MBの地域が多く見られるが、通信速度が遅い地域には、国の補助金を活用して携帯電話基地局を設置し、サービスエリアの拡大を進めている。

「(イ) 第3次瑞浪
市情報化推進計画
の実施評価」

事務局

「第3次瑞浪市情報化推進計画」では、6つの重要分野に分けて施策を実施した。

特に実施率が低い施策とその理由については以下のとおり。

- 重点分野②(2)「市民からの防災・防犯情報提供機能の構築」
- 重点分野③(4)「中京学院大学との連携」
⇒以上2点は、システム構築が必要となるが、構築費を賄えるほどの費用対効果が見出せず、また、セキュリティ上の問題があるため実施されなかった。
- 重点分野③(3)「市民パソコン講座の充実」
⇒市民パソコンの普及が見られたが、十分な参加者を募ることが出来なかったため実施されなかった。

重点分野⑤「行政業務の効率化」は、実施率100%を達成しており、全体の実施率も78%と高い比率であるため、「第3次瑞浪市情報化推進計画」は成果があったと評価している。

委員	パソコン講座は、「瑞浪市地域交流センターときわ」の「ときわチャレンジ講座」でも開催しているが、瑞浪市主催のパソコン講座との切り分けが分からない。また、11月には「市民無料パソコン相談室」、来年1月には「子どもパソコン教室」の開催を予定している。しかし、スマートフォンの需要が高まっていることもあり、今後はスマートフォン講座へ切り替える必要があるのではと考えている。
事務局	スマートフォンやタブレットへ市民ニーズが移ってきているため、パソコン講座からのシフトチェンジを検討する必要がある。
委員	それぞれの環境に高いパソコン知識を有する人物がいるため、パソコン教室へ通う需要が低くなっている。専門的なプログラム講座であれば、需要があるかもしれない。
委員	重要分野③(2)「まちづくり推進組織への支援」の4施策の内、2施策が未実施となっている。未実施施策の内容を教えてください。
事務局	未実施施策とその理由は以下のとおり。 ▶ 施策：「情報提供指針策定」 ⇒まちづくり推進組織とホームページ上での情報発信のルール作りを検討していたが、瑞浪市で情報提供指針についての要綱を策定したため、「情報提供指針策定」の必要がなくなった。 ▶ 施策：「ホームページ・YouTubeでの動画の配信」 ⇒サーバ上で動画を流すには容量が重く、また、YouTubeの利用についても、まちづくり推進組織の情報を瑞浪市のホームページに掲載することは難しいとの結論に至り、実施できなかった。
委員	各組織は、瑞浪市のサーバを利用するのではなく単独で行うこととなっているため、意見が分かれる施策だと思う。
「(ウ) 市民アンケート結果」、「(エ) 企業アンケート結果」、「(オ) 職員アンケート結果」	市民・企業・職員アンケート結果について事務局より報告を行った。
委員	市民アンケート「質問 4. 瑞浪市の無線 LAN 環境について」の回答結果の詳細を教えてください。

事務局	無線 LAN 環境の整備の認知度は、各世代 10% 台との結果であった。また、無線 LAN 環境を利用したことがない方は 338 名で、無線 LAN 環境を利用されている方は 40 名であった。最も利用されている施設は瑞浪市役所で 12 名となり、認知度の低い状態となっている。
委員	委員の方々も旅先では無線 LAN を利用されると思う。今回の結果は、瑞浪市内で無線 LAN が利用可能な場所を市民が認知していないためなのか、自身で無線 LAN を利用するための機器をもっていないからなのか、理由は調査・分析してみないと分からない。
事務局	スマートフォン普及率が高い結果となっているため、多くの市民が無線 LAN を利用する機器を所有していると認識している。利用率が低い結果となっているのは、市民が無線 LAN の利用場所を認識していないためだと考えられる。
委員	観光客であれば認知している可能性がある。特に外国人観光客は無線 LAN を利用するため、観光業界の主旨とは異なる結果であることが想定される。我々も電源の消費率が早いため、持ち運びの際は Wi-Fi を無効にするなど工夫しているため、使い勝手が悪い面もある。一般アンケートであれば、結果は異なると思う。
委員	アンケート結果の詳細は提供してもらえるか。
事務局	次回委員会にて提示する。
委員	オープンデータとは、私は入札状況やハザードマップで利用しているが、これらのデータを市民が利用するかという認識で合っているか。
事務局	オープンデータとは、瑞浪市が著作権を放棄したデータで、企業や市民がそのデータを自由に利用可能なデータと定義されている。入札状況やハザードマップのデータもオープンデータとなっている。
委員	普段からハザードマップを利用しているため、利用頻度に興味がある。市のオープンデータの構築には費用がかかると認識しているが、職員の観点から、オープンデータの活用方法を知りたい。
事務局	オープンデータの提供には、通常の業務システムからデータを吐き出し、サイトへ公開する仕組みが必要となる。この仕組みがない業務は、構築費用が発生する可能性がある。今回の調査対象は、各業務所管課が、オープンデータとして市民・企業に提供可能なデータを所有しているかの観点から行った。

「(カ) 調査結果の 総評」	調査結果の総評について事務局より報告を行った。
委員	「第4次瑞浪市情報化推進計画」では、キャッシュレスについてどのような取り組みを想定しているか。
事務局	キャッシュレスは岐阜県議会でも議題に挙げられている課題であり、支払いの選択肢の1つとしてあるべきものだと考えている。利用できる仕組みは備わっているため、実用化の検討が必要である。
委員	市窓口でのキャッシュレスの必要性については検討が必要だが、非常に便利な仕組みだと認識している。マイナンバーカードの活用とキャッシュレス化は、「第4次瑞浪市情報化推進計画」の課題となると考えている。
委員	職員アンケートの「キャッシュレス導入の必要性」について、64%が不要と回答しているが、回答理由は把握しているか。
事務局	理由は把握できていない。市役所では現金の取扱いが少ないため、職員がキャッシュレスの必要性を感じていないことが原因だと想定される。
「閉会のあいさつ」	
副会長	本日はインプット情報が沢山あり、まだ頭の中で整理できていない。瑞浪市の情報化施策が、市民へあまり周知されていない現状である。今後も人口減少が進むことが想定される中、情報化施策を拡げるだけでなく手を引くべきところは引き、瑞浪市に適した施策を取捨選択していくことが重要だと考える。アンケートの詳細データを確認した上で、よい提案ができるよう進めていきたい。